トゲ(後編)

桜華蒼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
トゲ（後編）

【Ｎコード】
Ｎ３９３９Ｄ

【作者名】
桜華蒼

【あらすじ】
逃れた海の家で、怯える哀の隠れたロッカーが開き……。哀ちゃんと新一くん。まだ告白してません、な関係。

（前書き）

久しぶりの投稿で、連載にする予定が（＜＿＞）

雨と風のうねりが耳に煩く響く。
もし、朝まで奴らがこないなら、また逃げよう。
残党の数なんてわからないけれど、見つけるまで奴らにしては時間がかかりすぎている。だったらチャンスはあるかもしれない。
ほんの少しだけ余裕が出てくる。
いつか、逮捕されたならまた戻ることだってできる。みんなは、待っていてくれるはず。
「かえるの」
そうつぶやいたとき、ばたんと扉の開く音がした。
思わず、身を固くした。
私は甘い。
忘れることも、逃げることもできないのに。
恐怖で叫びそうになった。ドタドタと辺りを荒らす有様がただ恐ろしい。ガタッとロッカーが開けられる音に目眩さえしてくる。
ジンのときのように、ポーカーフェイスでいれるだろうか？
問答無用で射たれてしまうの？
いやだ、そんなのは嫌。
話の通じない相手だというのは理解している。
――それでも生きたい。今は強く。
隣のロッカーが開いた。手を握り、唇を噛み締める。
扉が、開いた。
私は何も考えず、飛び上がり体当たりした。
「かえるんだから、絶対、生きてっ！」
馬乗りになって目をつぶって手を振り上げた。
しょせん子供の力。何度目かでついに手首をとられた。
「知ってる」
目を開けると、あまりのことに息すら忘れた。

「遅くなってごめんな」
「工藤、くん……」
額から血を流す彼が私の髪に手を伸ばす。
「もう大丈夫だから。そいつ、捕まった」
髪を撫でる。
「全部片をつけれなくて、恐い思いさせて、守るっていったのに。逃げさせたり、大事なものなくさせたり」
ぎゅっと抱き締められる。
「全部ごめん」
――トゲが、痛い。
「だから、泣かないで」
私を離すと彼は悲しそうに目を覗き込んで、それから目の縁を拭った。
「痛いの、トゲが抜けないのよ」
彼の心配をしなくちゃいけないのに、瞬きした私は零して左手を差し出した。
「中指にあるの」
「わかった」
携帯のライトで照らされ、丹念に指を見つめると。
「ないよ」
しばらくして彼は優しく言った。
「そんなわけないわ、だってあったもの。いまだって痛いの」
「灰原、ないよ」
真っ直ぐ見つめながら諭すように静かな声。
「トゲなんてどこにも」
「だけど」
言いかけた私は再び抱き締められた。息さえしにくくなるくらい強く。
「大丈夫だって」
「まだ、見せれないの、弱いって思われるのは嫌なの」

「うん。だからトゲが痛くて泣いてるんだろ？」
そうとは言えず、頷いた。
「いつかは抜けるから」
彼の体温のように、じんわりと温かい言葉が、冷えきった体に染みる。
私は、聞こえないように小さい声で
「すき」と呟いた。
ＥＮＤ

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3939d/

トゲ(後編)

2010年10月11日00時49分発行